

水稲の育苗について

○令和4年産の米生産の振り返り

令和4年産の作況指数（農林水産省発表）は県全体、県西部いずれも101で「平年並」でした。

普通期栽培においては、6月上旬の寡照により苗が弱徒長気味に生育しました。また、降雨等により麦の収穫が遅れたことで田植えが遅くなったり、6月下旬の異常高温により苗の活着が抑制されたケースもありました。

令和3年に多かったいもち病は少なく、目立った病害虫の発生はあまり見られませんでした。

高温障害を始めた天候不良でも安定的に収量を確保するためには、基本技術の励行と充実した苗づくりが必要です。

令和4年産水稲の作柄概況の詳細



お問い合わせ先

大里農林振興センター
農業支援部
熊谷市久保島1373-1
TEL. 048-526-2210
FAX. 048-526-2494

はこちらをご覧ください。
さ。



○育苗のポイント

1 目標とする苗(中苗育苗の場合)

育苗25～30日、葉齢3.5～4.0で草丈18cm前後のがっちりした苗の育成を目指します。

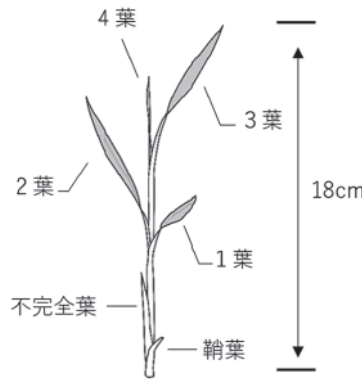


図1 植付け期の苗(3.5葉期)

2 播種までの管理

田植日から逆算して育苗25～30日、浸種7日を目安に、作業計画を立てます。

(1) 種子の準備

毎年採種ほ産の種籾を購入します。病害虫防除のために、温湯消毒か薬剤消毒を必ず行います。

(2) 浸種

種籾に十分に吸水させ、発芽をそろえるために重要な作業です。平均水温×日数が100℃になるまでを目安に浸漬します。(例：平均水温15℃の場合、7日間)

気温が低く積算温度が不足すると、発芽のバラつきに繋がります。

温湯消毒の場合は、水面に薄い膜が浮いてきたら水を交換します。

薬剤消毒の場合は、薬液から取り出した後、水洗いせずに浸種し、3日間は水を入れ替えないようにします。

1～2日おきに籾ネットを水から引き上げて上下を入れ替え、温度ムラを小さくし、酸素を補給して、発芽を揃えます。

(3) 催芽

種籾の出芽を均一にするため、はと胸(図2参照)にします。播種の前の一晩(12～20時間)種籾を28～30℃の温水に浸漬します。または、濡れむしる等に種籾を薄く広げ、さらにビニールで包み1～2日ほど暖かい場所に置きます。

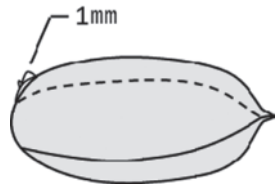


図2 はと胸状態の籾

(4) 播種

播種量は、催芽籾で1箱あたり100～120gを目安とします。厚播きは軟弱徒長気味の生育となる

ため、避けましょう。

3 育苗管理

(1) 出芽

幼芽が10mmになるまで日中は30℃を目標に管理します。

播種後に積み重ねを行う場合は、覆土後、1～2時間日光で温めてから積み重ね、ビニールで被覆します。2、3日後、幼芽が10mmほどになったら苗箱を広げます。

なお、屋外に積み重ねる時は、下の苗箱や日陰側で出芽が遅れることがあるため、苗箱を入れ替える等、温度むらがないよう注意しましょう。播種後すぐ苗代に並べる場合は、被覆資材で保温し、出芽が揃ったら寒冷紗で被覆します。

(2) 緑化・硬化

苗代に並べた後は水位が苗箱上面を超えないように注意します。

本葉1葉までの3～4日間は寒冷紗等をかけて強い直射日光を避け、日中20～25℃を目標に管理します。その後は徐々に日光・外気に当て、馴らします。

(3) 田植えまでの管理

水のやりすぎに注意し、土が乾いてきたらかん水するようにします。苗が老化しないように、適期に田植え作業を行いましょ。

大里農林振興センター農業支援部

